

2019年1月31日

立教大学国際学術研究交流制度  
2018年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	法学部・教授
	氏名	佐々木 卓也
受入学部・研究科・研究所		アメリカ研究所
招へい 研究員	所属・職	Dunlevie Family Professor of History, Department of History, School of Humanities, Rice University 所属機関所在国：米国
	氏名	Sayuri Guthrie Shimizu
招へい期間		2018年12月3日～2019年1月1日（30日間）
研究経費		842,996円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

\*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2018年12月3日(月)	来日
12月7日(金) 2限	文学部松原宏之教授担当「アメリカ合衆国史基礎演習」(10号館1階X108教室) 学部生15名：トランプ時代をアメリカ史の文脈において考察、分析。
12月13日(木) 5限	社会学部生井英考教授、アメリカ研究所江崎聡子特任研究員、法学部佐々木卓也「〈トランプ時代〉の解剖学—アメリカ文化の現在」(11号館地階AB01教室) 学部生約60名：トランプ現象について、その政治的・文化的・社会的な意味を分析。
12月13日(木) 6限	アメリカ研究所所員、学内のアメリカ研究者との交流。

12月17日(月)5限	文学部新田啓子教授「米文学特殊研究——白と黒のモダニズム」(5号館2階5204教室)大学院生(ただし学部生の出席も可)10名:ジェンダー論の視点から占領期を含む戦後日米関係の展開について検討、考察。
12月20日(木)5限	社会学部生井英考教授、アメリカ研究所江崎聡子特任研究員、法学部佐々木卓也「〈トランプ時代〉の解剖学—アメリカ文化の現在」(11号館地階AB01教室)学部生約60名:アメリカにおける政治と宗教について、主にテキサス州の福音派を主眼に講義。
12月21日(金)5限	法学部佐々木卓也担当学部演習「アメリカの対外関係」(9号館3階9301教室)学部生8名:テキサス州の独特の政治風土、ヒスパニック系市民の動向について講義。
12月26日(水)3限	アメリカ研究所所員研究会(12号館2階アメリカ研究所内)「所員対象研究会」6名:トランプ政権と日米関係について検討、分析。
2019年1月1日(火)	離日

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層(学生、大学院生、一般、教職員等)、会場の様子なども記載してください。

清水さゆり氏はその豊富な学識、魅力的な人柄を遺憾なく発揮し、上記の講義、演習、研究会において、トランプ政権の政治的、社会的、文化的な意味合い、歴史的な位置づけ、現在の日米関係の検討のみならず、戦後占領期における日米関係をジェンダーの視点で把握する議論を提示し、学部生、大学院生をはじめ、本研究所所員にも大きな知的刺激を与え、豊かな知見をもたらした。清水氏は当初の活動予定には入っていなかったが、法学部佐々木の学部演習「アメリカの対外関係」(12月21日金曜日5限9号館9301教室、出席者8名)、にて、昨年11月の中間選挙に自ら選挙ボランティアとして参加した経験を交え、アメリカで政治的・経済的重要性を益々増大させているテキサス州の独特の政治風土、ヒスパニック系市民の動向など、現地に長く居住し、事情に精通する専門家ならではの視点で講義をおこない、学生に大変好評であった。清水氏はさらに予定外ながら、全カリ講義「〈トランプ時代〉の解剖学—アメリカ文化の現在」(12月20日(木))にも、今度は生井教授、江崎特任研究員、佐々木と共に登壇し、当テーマに関する議論に参加した。

清水氏は現在、日本アメリカ学会とアメリカの関係学会との橋渡しを務めるなど、日米の学会で活躍するまさに第一級の学者である。立教大学アメリカ研究所として、今回の招聘研究員受け入れを契機に、今後も清水氏との学術交流を深めることが重要であることを確認させた四週間であった。その一環として、2019年春に発行するアメリカ研究所の紀要『立教アメリカン・スタディーズ』第41号に論文を寄稿していただく予定である。

(特記事項) 本学との学術協定(学部間・研究所等間を含む)の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。

とくになし。